

として、まだまだ、発展することでしょう。う。

文明の進んだ時代に生きる私達、私は祖先のご苦労に感謝し、祖先から受けついでたものをもっとと生かして生きたいのです。私はひまさえあれば、家の設計図、スタイル画、簡単な器具と器具を組み合わせたもの見取り図を書きまします。こんなものを書いてみると、いろいろな形が頭にうかび、とても楽しいのです。だから、物を組み合わせて生活に役立つものを見つけだす、そんな人になりたいたいです。小さな事でも、世の中の役に立つ仕事をしたいたいです。

しかし、今はしっかりと勉強に運動にはげんで、将来の基礎を作ります。ものごとくに精いっぱい努力をし、自分の事だけでなく人の立場も考えられる人間になりたいのです。私は、一日、一日をまじめに努力を積み重ねていきます。

布田保之助おうを生んだ矢部町、どっしりとあたたかく見守ってくれる通潤橋、こんな郷土に生まれたことをほりにし、熊本の、いや、日本の子どもとして、私は明るく正しく強く生きていきます。

中学生の部

心うたれる人間の歴史

江藤 せい子 (熊本市立江南中学校三年)

明治、それは、私にとってまことに遠い時代である。しかし、このことばを聞くたびに、なぜか厳肅な気持ちになる。そして、たまらない懐かしさと憧れすら覚える。これは私だけでなく、日本人として生をうけた、全ての人に共通する思いであろう。

日本の近代化の夜明けから百年。日本は大きく変わった。私は、この間の歩みを知るために、多くの書物を読んだ。そこには、維新に命をかけて活躍した政治家、国の将来を憂い、国難におもむいた志士たちの雄々しい姿があった。しかし、それにもまして私を魅了したのは、政治そのものを真摯に考えている民衆のひたむきな姿勢であり、困難に耐え抜いた人間の輝かしい歴史であった。全ての国民が自由を勝ち取るために心を一つにして戦ったからこそ、小さな島国にすぎなかった日本が世界有数の先進国になることができたのだ。私は、「一致団結」「挙国一致」の意義の重大さを、明治の

人々は身をもって教えてくれたのを実感としてうけとめている。

だが、現在の世相はどうであろう。何と対立抗争の多いことか。もちろん、世の中は千差万別の人間の集まりゆえ、物の見方、考え方が異なるのは当然だろう。しかし、自分の祖国を、郷土を愛し慕い、慈しむ心は皆同じであるはずだ。

維新の時、郷土熊本の人々は、地方であるがゆえに維新の波に乗り遅れまいと、純粋に涙ぐましい努力をしている。私は、それら先輩の言行を思うたびに、激しく胸をゆすぶられるのだ。今日の「自由と平和」は、祖先の血と汗の結晶である。だからこそ、私たちはその意志を継ぎ、この美しい祖国と郷土のために明治の先輩の勇気と忍耐と努力と英知をもって力強く実践してゆかねばならないのだ。私は、現在はまだ中学生であり、大したことはできない。しかし自分の郷土を、国を愛し、祖国に誇りを持つことはできる。

明治に生まれ、現在もお日本の発展のために活躍中の松下幸之助氏が、いつか、こんなことを言われたことがある。「どんな小さなことでもよい。やっぱり、人に一隅にあってよい。やっぱり、人に尽くし世に尽くし、自分も仕合わせなら他人も仕合わせ、そんな働きをしてみたい。そんな支えになってみたい。別にむづかしいことではなく、きょうの一日を、そしてあすの一日を、自らの手で少しずつ充実させてゆけばよいのである。」

私には、このことばを実行するぐらいの力しかないが、全ての人が、みなこのような気持をもてば、日本の社会は、国家は、そして郷土は、一層充実発展してゆくに違いない。

日本、また熊本も、現在新たな開花の時を迎えつつある。私たちは、日本人としての信念と熱意と郷土愛と祖国愛とを持ち、共に手を取り合い、明治の人々の偉大な業績に思いを馳せ、平和と繁栄の道を誇り高く歩もう。

高校生の部

すばらしい日本人になるう

相馬 祐二 (阿蘇農業高校三年)

私達が日本の未来を、また進むべき道を論じ合うとき、日本がすでに歩いてきた歴史を顧みることが、極めて意味あることである。それからしても今年明治百年を迎えて、その百年のもつ意義を考え、県民一同が、更には国民が総べて、より高次な社会の建設のために、決意を持つことは、実にすばらしいことと言えよう。

さて、この百年間日本人はどのようにして生きてきたのだろうか。維新後の日本人は貧欲なまでに、欧米諸国文化の摂取に必死であった。そして海外の実情を知ることは、日本の弱小さを知ることでもあり、勢い、国力の強化、即ち富国強兵策をとった。このようにして開国後五十年足らずで、遂に日本は世界の強国と並べるに至った。ところが強国の仲間入りをするに、次があるのが戦争であった。結果はたゞ勝と負で言うことが出来るが、このふたつの言葉に達する迄には、数多くの尊い人命が失われた。特に第二次世界大戦では、広島と長崎が最も悲惨な原爆の犠牲となった。

開国。維新。それ迄のように、国内だけを考えればよかった人々が、急に全世界に、視野を拡げなければならなくなり、戸惑うのは当然のことである。先進

国と対等の地位に立つために、いきなり文化摂取を急いだ人々の行為は、なるほど、西洋文化の模倣にすぎず、それも都市中心の発達に終っただけだと、非難もあつたけれども、責めるべきではない。それはもう今では、借りものの文化ではなく、消化されて、すっかり日本のものになっている。また戦争の歴史は、日本人に戦争放棄を誓わせた。このように総べての歴史は、次に来る歴史のための土台となっている。

今日の日本の繁栄は、ひと眠りの間に完成したのではない。高度な文化も、経済も、そよ風が運んできたものではない。そして世界に於けるすぐれた地位も、一朝一夕に得られたものではない。それらは総べて、誠実な私達の父母、祖父母達が、そしてその父母、祖父母達が建国のために投じた努力の結果なのである。

過去は全く除外してしまつて、現在だけを取り出して今から、何をなすべきか、どう生きるべきか、これらのことを考えることは、私達には甚だ困難なことである。歴史があつて初めて、現在の日本を知り、日本の将来を見通すことが出来るのである。明治百年。この百年間、日本は多くの業績をなした。私達はそ

の歴史のうえに立ち、謙虚に考え、よりすばらしい日本を作るため、よりすばらしい日本人になるため、よりすばらしい

明治百年記念植樹祭に参加して

今年、明治から数えて百年、祖父や父母から話してもらった事によると、むかしの西の岩の道はせまく、橋はつり橋だったそうです。食りょうは、どうしていたかというのと、ともち町まで三時間以上あるいて行き、帰りは自分で、めぐでからってこられたと、いう事です。木材を出すにも、人間がかついたり牛や馬でひいて、出していたそうです。このごろ僕たちの西の岩では、道が出来るたびに、山の木がたおされている所が、よく見えます。僕たちの所は、あまり車が通らないので、車での事故がないのですが、木がつきつきにおおされるので山くずれが、おこるかもしれません。こう水



この記念樹をたいせつに

八代郡泉村泉第六小学校西の岩分校六年

堅山 忍

も起る心配がありますので、木を切りだしたらすぐに木を植えてもらいたいものです。それからまたむかしは、僕たちの西の岩では、電気はありませんでした。電気は、昭和三十六年にできました。その前は、たい松や石油ランプを利用してお母さんたちは、勉強をしておられたそうです。今は、僕たちは明かるい電気で勉強していいからあせです。さて今年、明治百年に当って県の記念事業として、僕たちの西の岩に記念樹を植えることになり、げん場にはもうりっぱな記念とうが立てられています。記念の植えつけが終わって何年何十年間か、たつ時には僕たちも何のやくにかたつようになつてこの記念樹をたいせつに守って行きたいと思ひます。こんな小さなへんびな部落でも熊本県からえらばれて、大きな事業が、おこなわれて行くようになりました。今まで以上に便利な住みよい平和な村を作つて行きたいと思ひます。そして一生けんめい勉強して町の子どもに負けぬような子どもになるようにします。今日は僕たちの分校にわざわざお立ちよりくださり、その上たぐきさんのおみやげをほんとうにありがたうございました。だいに使いたいと思ひます。